

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 年	<p><活用する力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を定着・活用する力をつける。 <p><語彙力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 音と文字の関係が曖昧な生徒がいる。 語彙数を増やし、定着・活用する力をつける。 <p><表現力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校から取り組んでいる英語活動の内容をさらに発展させ、自分の言葉で発表する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、モデルステップで反復しながらスパイラルに学習させる。 単語の小テストなどを計画的、継続的に行う。単語から基本文へとつなげ、活用させる。 Q&Aシートを活用する。また、少人数の特徴を生かしALTと協力し、楽しく表現させる機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期補充教室等の個別指導を行うと同時に、2技能以上統合させた授業展開を計画的に行う。 ユニット毎に単語・単元テストや夏休み明けに、スペリングコンテストを行う。 様々な場面設定を設け、ペアワークなどを活用しながら、実用性や必然性をもたせた表現活動を行う。
2 年	<p><活用する力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の語彙や文法項目を定着させ、応用的な活動へとつなげていく。 <p><読解力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 長文読解の際、指示語の読み取りなどを苦手とする生徒が少なくない。 <p><表現力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 積極性に乏しく、授業内の発言が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文法項目を活用して、スピーチやスキットなどの発表活動を行う。 長文読解の際に主語と動詞を意識させ、意図的に指示語に関する質問を行い、意識付けを行っていく。 Q & A やチャットをペアで行い、生徒の英語での発話量を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期補充教室等を行い、基礎基本を身に付けさせる指導を行う。 毎学期、複数回の発表活動に取り組み、発展的な表現も指導していく。 読むスピードなどにも留意し、おおまかな内容をつかんでから内容把握につなげるポイント指導を行う。 ペアやグループでの活動を毎時間取り入れ、自分の意見を積極的に発信させる。
3 年	<p><活用する力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の文型について、復習、応用する機会がやや少ない。 <p><長文読解について></p> <ul style="list-style-type: none"> 長文読解や内容把握を苦手とする生徒が多い。 <p><表現力について></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の文型を用いて会話や文章を続ける力をさらに発展させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の文型に取り組む時間を確保する。Q&Aシートなど、繰り返し学習ができる機会を増やす。 定期的に教科書や教科書以外の長文に触れる機会を増やし、慣れさせる。 活動の機会を多く設定する。表現力をのばすための工夫の仕方を提示していく。 ALT と協力し、表現の機会を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業中や単元によって、補充的な学習教室を行う。 それぞれの進度に合わせて1、2年の復習の定着から総合問題まで放課後補習等で指導を行う。 ALT との会話や手紙のやりとりなどで表現力を発展させる。